

第223回 上級 原価計算 ①

問題 1

問 1

以下の に各⑤

製造間接費予算部門別配賦表

(単位：円)

	切 削 部 門			組 立 部 門		
	変動費	固定費	計	変動費	固定費	計
第1次集計額	3,665,000	2,745,625	6,410,625	3,695,000	3,116,875	6,811,875
第2次集計						
第1次配賦						
動力部門費	[560,000]	[2,165,625]	[2,725,625]	[448,000]	[1,378,125]	[1,826,125]
水道部門費	[495,000]	[630,000]	[1,125,000]	[429,000]	[720,000]	[1,149,000]
第2次配賦						
動力部門費	[220,000]	[275,000]	[495,000]	[176,000]	[175,000]	[351,000]
水道部門費	[60,000]	[183,750]	[243,750]	[52,000]	[210,000]	[262,000]
第2次集計額	[1,335,000]	[3,254,375]	[4,589,375]	[1,105,000]	[2,483,125]	[3,588,125]
部門費合計	[5,000,000]	[6,000,000]	[11,000,000]	[4,800,000]	[5,600,000]	[10,400,000]

問 2

切 削 部 門			組 立 部 門		
変動費率	固定費率	予定配賦率	変動費率	固定費率	予定配賦率
[500]	[600]	[⑤ 1,100]	[600]	[700]	[⑤ 1,300]
円／時間	円／時間	円／時間	円／時間	円／時間	円／時間

問 3

以下の に各⑤

原価計算表

(単位：円)

製造指図書番号	# 1	# 2	# 3	# 1-R	# 2-2
直接材料費	[1,792,000]	[420,000]	[1,470,000]	[1,372,000]	[1,610,000]
直接労務費	[1,680,000]	[336,000]	[1,260,000]	[780,000]	[960,000]
製造間接費					
切削部門	[2,915,000]	[748,000]	[2,288,000]	[1,848,000]	[2,695,000]
組立部門	[3,705,000]	[585,000]	[2,444,000]	[1,105,000]	[2,145,000]
仕損品売却額	—	[△358,000]	—	—	—
作業屑売却額	—	—	[△150,200]	—	—
仕損費振替	[5,105,000]	[△1,731,000]	—	[△5,105,000]	[1,731,000]
合 計	[15,197,000]	[0]	[7,311,800]	[0]	[9,141,000]

(マイナスには△をつけること。)

第223回 上級 原価計算 ②

問4

複数基準配賦法とは、補助部門費を固定費と変動費に区分し、固定費は用役供給能力に比例して

発生するため用役需要能力を基準として配賦し、変動費は用役供給量に比例して発生するため

用役消費量を基準として配賦する方法である。 ⑩

問題2

問1

第1工程の正常仕損費 [⑥ 32,000] 円

問2

第1工程の完成品原価 [⑦ 361,600] 円

第1工程の月末仕掛品原価 [⑦ 76,000] 円

問3

第2工程の正常仕損費 [⑦ 27,000] 円

問4

第2工程の完成品原価 [⑨ 643,150] 円

第2工程の月末仕掛品原価 [⑨ 55,350] 円

○数字は予想配点

第223回 上級 管理会計 ①

問題 1

問 1

A設備	① 〔② 910,000〕円	② 〔② 2,910,000〕円
B設備	① 〔② 875,000〕円	② 〔② 3,675,000〕円

問 2

A設備 〔 ③ 350,000 〕円 B設備 〔 ③ 490,000 〕円

問 3

〔 1,857,980 〕円

両方正解で⑩

計算過程

$$2,910,000円 \times 3.993 + 350,000円 \times 0.681 - 10,000,000円 = 1,857,980円$$

問 4

結論：(A設備 B設備) を採用すべきである。() 内の適切なほうに○をする。

両方正解で⑩

根拠 A設備の方が正味現在価値が850,015円大きいため。

問 5

結論：(A設備 B設備) を採用すべきである。() 内の適切なほうに○をする。

両方正解で⑩

根拠 B設備の方が正味現在価値が72,368円大きくなるため。

問 6

① 企業に投下されている資本1円あたりに要求される利益である。 ③

② 複数の調達源泉から資金調達している場合には、企業全体の加重平均資本コストを用いる。 ③

第223回 上級 管理会計 ②

問題2

問1 (単位:円)

予 算 損 益 計 算 書				
売 上 高	〔 ②	28,800,000	〕	
変 動 売 上 原 価	〔 ②	16,320,000	〕	
変 動 販 売 費	〔 ②	1,440,000	〕	
貢 献 利 益	〔 ②	11,040,000	〕	
固 定 加 工 費	〔	7,200,000	〕	
固定販売費及び一般管理費	〔	1,200,000	〕	
営 業 利 益	〔 ②	2,640,000	〕	

問2

〔 ⑤ 21,913,044 〕円

問3

〔 ③ 4.18 〕

意味: 総原価に含まれる固定費の利用度が大きく、売上高の増減に対して営業利益が大きく増減することを意味する。 ③

問4 (単位:円) 不利な差異には△を付すこと

予 算 営 業 利 益		〔 2,640,000 〕
売 上 高 差 異		
販 売 価 格 差 異	〔 ② 460,000 〕	
販 売 数 量 差 異	〔 ② △ 1,200,000 〕	〔 △ 740,000 〕
変 動 売 上 原 価 差 異		〔 ② 86,600 〕
変 動 販 売 費 差 異		
予 算 差 異	〔 ② 46,000 〕	
販 売 数 量 差 異	〔 ② 60,000 〕	〔 106,000 〕
貢 献 利 益 差 異		〔 △ 547,400 〕
固 定 加 工 費 予 算 差 異		〔 ② △ 50,000 〕
固定販売費及び一般管理費予算差異		〔 ② 20,000 〕
実 際 営 業 利 益		〔 2,062,600 〕

問5 不利な差異には△を付すこと

総需要量差異〔 ⑤ △ 4,800,000 〕円 市場占有率差異〔 ⑤ 3,600,000 〕円

問6

予算管理には、計画機能、調整機能、統制機能の3つの機能がある。更に統制機能は、事前統制、

期中統制、事後統制の3つからなる。 ⑤

○数字は予想配点